

令和6年度

事業概要

にぎわいスポーツ文化局

目 次

頁

I	令和6年度にぎわいスポーツ文化局運営方針	1
	基本目標	
	目標達成に向けた施策	
	1 大規模イベントを契機とした回遊性向上・宿泊促進	
	2 観光・M I C E の振興	
	3 スポーツ環境の充実	
	4 文化芸術創造都市施策の推進	
	目標達成に向けた組織運営	
	予算額の概要	
II	令和6年度にぎわいスポーツ文化局 主要事業	4
	1 大規模イベントを契機とした回遊性向上・宿泊促進	4
	2 観光・M I C E の振興	6
	(1) 持続可能な観光・M I C E 推進体制の構築と観光・M I C E 産業の活性化	
	(2) 魅力あふれる観光コンテンツの創出	
	(3) 戰略的な誘客プロモーション	
	(4) グローバルM I C E 都市としての競争力強化と魅力向上	
	3 スポーツ環境の充実	9
	(1) スポーツに親しむ環境づくり	
	(2) スポーツを通じた共生社会の実現	
	(3) 大規模スポーツイベントの誘致・開催等による地域経済活性化	
	(4) スポーツ施設を中心とした地域活性化	
	4 文化芸術創造都市施策の推進	12
	(1) 文化芸術を通じた次世代育成の取組	
	(2) 文化芸術によるまちのにぎわいの創出と国内外への発信	
	(3) 歴史と創造性を生かしたまちづくり	
	(4) 市民の文化芸術活動への支援と環境整備	
	◆ トピックス	15
	I 次世代育成と子育て世代向けの取組	
	II 共生社会の実現に向けた取組	
	III デジタル技術を活用した取組	
	IV 脱炭素社会の実現に向けた取組	
	V 地域活性化に向けた取組	
III	令和6年度にぎわいスポーツ文化局予算総括表	20
IV	予算科目別内訳	21
	1 にぎわい総務費	21
	2 文化芸術創造都市推進費	22
	3 スポーツ振興費	26
	4 にぎわい観光M I C E 振興費	28

I 令和6年度 にぎわいスポーツ文化局運営方針

基本目標

にぎわいによるまちの活力の創出

目標達成に向けた施策

民間コンテンツを含む様々な大規模イベントを契機に、まちを楽しんでいただく仕掛けを戦略的に展開することで、回遊性を向上させ、宿泊促進を図ります。あわせて、観光・MICE、スポーツ及び文化施策における、一つひとつの取組の魅力も高めることで、にぎわい創出とまちの活力につなげ、横浜市中期計画 2022～2025 基本戦略「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」、そして「選ばれる都市」「住みたい・住み続けたい都市」の実現を目指します。

4つの柱を軸に、複雑化・多様化する社会課題や市民ニーズに対応するための5つの視点も重視しながら、取組を推進します。

にぎわいによるまちの活力の創出

«基盤となる4つの柱»

- 1 大規模イベントを契機とした回遊性向上・宿泊促進
- 2 観光・MICEの振興
- 3 スポーツ環境の充実
- 4 文化芸術創造都市施策の推進

【トピックス～5つの視点～】

- i 次世代育成・子育て世代
- ii 共生社会の実現
- iii デジタル技術の活用
- iv 脱炭素社会の実現
- v 地域活性化



横浜市中期計画2022～2025
基本戦略「子育てしたいまち 次世代をともに育むまち ヨコハマ」
「選ばれる都市」「住みたい・住み続けたい都市」の実現

◆GREEN×EXPO 2027 の成功に向けた機運醸成◆

にぎわいスポーツ文化局では、各種イベントにおいて、GREEN×EXPO 2027 の広報 PRを行ってきました。

今後多くの集客が見込める大規模イベント等のあらゆる機会を通じて、参加者や関係者に対して広報 PR を積み重ね、GREEN×EXPO 2027 の成功に向けて、一段と機運を高めます。



【イベントでのブース設置 (Green Triathlon)】

1 大規模イベントを契機とした回遊性向上・宿泊促進

都心臨海部に数多く広がる魅力的な公共空間等を積極的に活用し、戦略的に回遊性向上・宿泊促進を図ることで、にぎわいを創出し、市内経済の活性化につなげます。

地元企業や商店街・団体等が実施主体となる横浜の歴史と魅力を生かした大規模イベントの開催支援に加えて、eスポーツの推進や、音楽アーナ等で開催される民間イベント等と連携した取組、幅広い世代が楽しめる音楽を中心としたライブエンターテインメントの新たなフェスティバル、まち全体を光と音楽で演出する創造的イルミネーションなどを実施します。

2 観光・MICEの振興

「横浜市観光・MICE戦略」に基づき、事業者や市民の皆様と共にオール横浜で持続可能な観光・MICEを推進します。

そのため、DMO(※)を中心とした多様な関係者による推進体制を強化し、マーケティングに基づく戦略的なプロモーションによる国内外からの誘客促進や、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等のMICE誘致・開催支援、アフターコンベンションの充実に取り組み、来訪者の回遊性向上・宿泊促進を図ることで観光消費拡大につなげます。

※ 観光地域づくり法人（DMO：Destination Management/Marketing Organization）：地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行うけん引役となる法人。横浜市では、4年10月に（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー（当時）が観光庁から認められ、登録DMOとなりました（6年4月22日に（公財）横浜観光コンベンション・ビューローから（公財）横浜市観光協会に名称を変更しました）。

3 スポーツ環境の充実

誰もが共に「する」「みる」「ささえる」スポーツを身近な場所で楽しめる機会を提供することで、市民の皆様の健康増進や生きがいづくりを進めるとともに、共生社会の実現や地域コミュニティの活性化につなげます。

また、大規模スポーツイベントの誘致・開催や市内トップスポーツチームとの連携により、交流人口の増加、回遊性向上・宿泊促進を図るとともに、スポーツ施設を中核とした市民活動の活性化を図るなど、スポーツ都市横浜の実現に向けて、まちのにぎわいや活力を創出します。

4 文化芸術創造都市施策の推進

次世代を担う子どもたちの豊かな創造性や感性を育むための文化芸術体験機会の更なる充実を図るとともに、各文化施設における共生社会実現への取組や、市民の皆様が文化芸術活動に取り組む環境整備を進め、心豊かな市民生活の実現に寄与します。

また、多彩なアートイベントや文化施設等の運営による魅力の発信、歴史的建造物等の活用を通じたにぎわいの創出など、文化芸術創造都市施策を推進し、都市のプレゼンス向上につなげます。

さらに、創造性を生かしたまちづくりを郊外部に広げることで、地域コミュニティの活性化を進めます。

目標達成に向けた組織運営

共感・協働を大切に

現場の声をしっかりと受け止めるとともに、市民、民間事業者、NPO 等の皆様との対話を重ねることで信頼関係を築きます。

また、関係機関・区局統括本部と連携し、分野の垣根を超えた施策を推進することで、横浜の魅力をさらに高め、にぎわいと活気にあふれた、ワクワクする都市・横浜を創ります。

新たな発想で チャレンジ

時代や社会の要請を踏まえた施策の推進や持続可能な市政運営に向けた取組を実践します。

そのために、職員一人ひとりが「市民目線」「スピード感」「全体最適」の視点を持ち、また、データを活用しながら、前例にとらわれない新たな発想で、横浜が持つ多様な可能性にチャレンジし続けます。

人材育成と 職場づくり

職員一人ひとりが能力を発揮し、チャレンジすることができる人材を育成します。

また、業務や職位を超えた活発な議論を通じて、風通しのよい職場を推進することでイノベーションの創出につながる好循環を生み出すとともに、デジタル技術の活用など、業務の効率化を図ることで、働きやすい職場づくりを推進します。

予算額の概要

令和6年度のにぎわいスポーツ文化局の一般会計予算額は、218億7,826万円、対前年度11億3,766万円(4.9%)の減となっています。

主な減額理由は、横浜美術館大規模改修事業における改修工事の終了によるものです。

区分	6年度予算額	5年度予算額	増減
一般会計	218億7,826万円	230億1,592万円	△11億3,766万円 (△4.9%)

(内訳は 20ページのにぎわいスポーツ文化局予算総括表を御覧ください。)

II 令和6年度 にぎわいスポーツ文化局 主要事業

1 大規模イベントを契機とした回遊性向上・宿泊促進

戦略的にぎわい創出事業 3億502万円（前年度：2億2,990万円） p.28

▶大規模イベント等を活用した戦略的回遊性向上・宿泊促進 《拡充》

都心臨海部の水際線の魅力やポテンシャルを最大限引き出すなど、公共空間等を積極的に活用したにぎわいづくりに取り組むとともに、地元企業や商店街・団体等が実施主体となる横浜の歴史と魅力を生かした大規模イベントの開催を支援します。

また、音楽アリーナの集積等を契機に、コンサート、エンターテインメント、スポーツなどの多くの来街者が集まるイベントを活用し、イベント主催者や商業施設等の民間事業者と連携することで戦略的な回遊性向上・宿泊促進策に取り組み、更なるにぎわいを創出し、市内経済の活性化につなげます。



【横浜スパークリングトワイライト】



【ポケモン WCS2023 横浜みなとみらいイベント】
©2023 Pokémon. ©1995–2023 Nintendo / Creatures Inc. / GAME FREAK inc



【山下公園通り歩行者天国】



【コンサート連携による特別ライトアップ】

▶eスポーツを活用したにぎわい創出 《新規》

世界中が注目する急成長分野であるeスポーツを活用し、大規模大会の開催支援等を行うことで、更なるにぎわいを創出します。

eスポーツは、国籍・性別・年齢・障害の有無等に関わらず、誰もが参加できるという特徴があります。この特徴を生かし、eスポーツに取り組む市民活動を支援し、地域コミュニティの活性化につなげます。



【親子 e スポーツ体験会】

フェスティバルによるにぎわい創出事業 《新規》

1億8,082万円（前年度：6,146万円） p.24

集積する音楽施設や大規模イベントと連携した発信力のあるコンテンツ、公共空間・オープンスペースを活用した街なか展開、次世代育成や市民参加の取組など、幅広い世代が楽しめる音楽を中心としたライブエンターテインメントの新たなフェスティバルを開催し、回遊促進を通じたより一層のまちのにぎわい創出につなげます。

開催
概要

開催時期：秋頃

ジャンル：音楽を中心としたライブエンターテインメント

（ダンス・スポーツ・アニメコンテンツなどのジャンルを幅広く含む）



【高校吹奏楽部による演奏（JR桜木町駅前広場）】



【高校ダンス部によるパフォーマンス（グランモール公園）】

撮影：大野隆介

創造的イルミネーション事業

3億6,000万円（前年度：4億円） p.22

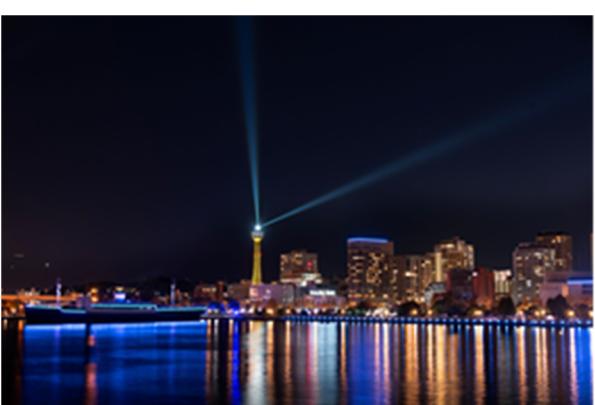
都心臨海部における先端技術を用いた光と音楽の演出により、横浜ならではの港の夜景をまちぐるみで創出するとともに、地域のイルミネーション等と連携して冬の夜の回遊性向上や滞在時間の延長を図り、にぎわいづくりにつなげます。

また、水際線を安全に楽しく歩けるよう、これまでのイルミネーションのノウハウを生かし、光環境づくりの検討を進めます。

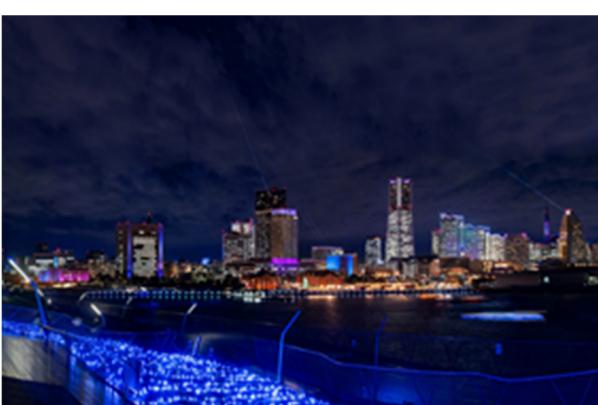
開催
概要

開催時期：冬季

会 場：都心臨海部一帯



【まち全体の光の演出風景（5年度）】



撮影：森日出夫

2 観光・MICEの振興

(1) 持続可能な観光・MICE 推進体制の構築と観光・MICE 産業の活性化

■ DMO推進事業 «拡充» 1億2,223万円(前年度:1億2,142万円) p.29

人流データの分析や、インバウンドニーズ調査等を実施するなど、登録DMOである（公財）横浜市観光協会のマーケティング機能を一層強化します。

また、DMOが観光・MICEのけん引役として、観光地域づくりフォーラムやワーキング等の開催を通じ、地域や観光事業者など多様な関係者を巻き込みながら、マーケティングに基づく戦略的な施策を展開します。

(2) 魅力あふれる観光コンテンツの創出

■ 三溪園施設整備等支援事業 1億8,268万円(前年度:1億9,771万円) p.28

重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、工期を3期に分け、緊急度の高い建造物から実施しています。6年度は、旧矢箇原家住宅及び庭園の修繕等に対し支援します。

また、観光施設としての新たな魅力創出に向けて、規制緩和などの検討を進めます。



【旧矢箇原家住宅（重要文化財）】



【5年に及ぶ修理を終えた臨春閣（重要文化財）】

(3) 戰略的な誘客プロモーション

■ 戰略的誘客プロモーション事業 2億5,776万円(前年度:2億4,864万円) p.28

▶国内誘客

市内事業者と連携して、記念日等の非日常を楽しむことのできる特別感のあるコンテンツ開発に取り組むとともに、OTA(※1)やメディア、商談会・展示会等を活用したプロモーションを実施し、リピーターの獲得につなげていきます。

また、冬季閑散期対策も進めることで、回遊性向上・宿泊促進による市内経済の活性化につなげます。



【ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西】

▶海外誘客

訪日観光の活発化や航空便の就航状況などを踏まえ、OTA(※1)等を活用した戦略的なデジタルプロモーションを行い、市内へのインバウンド誘客を図ります。

また、観光レップ(※2)等による情報発信や現地旅行会社へのセールス・プロモーション、商談会・展示会への参加等を実施します。加えて、クルーズ・フレンドリー・プログラムを実施し、クルーズ旅客等の市内回遊性向上を促進します。



【アジア向け OTA プロモーション
特設ページ (5 年度実施)】



【Cruise World 2023
(北米最大級のクルーズ専門見本市・商談会)】



【Visit Japan FIT Fair #15
(タイで実施された訪日旅行博)】

(※1) OTA (オンライントラベルエージェント)

ホテル、航空券、国内外旅行の予約など、インターネット上だけで取引を行う旅行会社。

(※2) 観光レップ(rep)

英語の Representative の略。代理店の意味合い。自治体や事業者の代理を旅行会社や広告代理店等に委託し、現地の海外旅行市場の調査分析や観光情報の発信等を行う。

(4) グローバルMICE都市としての競争力強化と魅力向上

MICE誘致・開催支援事業 2億4,021万円 (前年度:2億3,501万円) p.29

▶MICEマーケティング機能強化 『拡充』

MICE開催に伴う経済効果の拡大と誘致推進のため、MICEのマーケティング機能を強化します。ターゲット会議のリサーチを進め、戦略的な誘致を加速するとともに、参加者の回遊・消費動向調査を実施し、市内関連事業者と共有することで、経済効果の拡大を図ります。

▶MICE誘致

セールス活動や主催者とのネットワーク構築、主催者・参加者双方の来訪意欲を喚起するプロモーションを強化するとともに、助成金等を活用して誘致活動を推進します。

▶MICE開催支援・受入環境整備

MICE主催者や参加者に対して、横浜ならではの回遊ツアーや体験型コンテンツ等の効果的なプロモーションを行うことで、アフターコンベンションによるMICE参加者の回遊促進を通じた消費拡大に取り組みます。

また、セミナー開催等による市内MICE関連産業の育成や商談会の実施など、市内事業者のビジネス機会の創出につなげます。

►M I C E 次世代育成

国際会議等の開催に合わせ、子どもたちを対象に最先端の技術や情報に触れられる講演やワークショップ等を開催することで、専門性の高い内容を楽しく学ぶ機会を提供します。

►政府系国際会議誘致・開催支援

生物多様性国際ユース会議等、各区局で行う国際会議の誘致・開催支援活動等に対して、ノウハウの提供やブース出展への支援など、様々な形でサポートを行います。



【「第22回 国際自動制御連盟世界大会」5年7月
於：パシフィコ横浜】



【アフターコンベンション（はしご酒ツアー）の様子】

20街区M I C E 施設整備運営事業

33億241万円（前年度：32億9,799万円） p.29

「パシフィコ横浜ノース」について、PFI事業により維持管理及び運営を行います。
新たな顧客開拓・市場創出に取り組み、にぎわい創出・市内経済の活性化へ貢献します。



【パシフィコ横浜ノース 外観】

3 スポーツ環境の充実

(1) スポーツに親しむ環境づくり

子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業

1,584万円(前年度:1,550万円) p.26

▶学校訪問事業

子どものスポーツ活動を促進するため、児童生徒を対象としたパラリンピアン等による学校訪問を充実させます。

▶子育て世代のスポーツ活動支援事業 《新規》

子育て世代が気軽に安心してスポーツに取り組める環境を作るため、託児サービス付きイベントに加え、新たに親子で共に楽しめるイベントを民間事業者やトップスポーツチーム等と連携して開催します。



【パラリンピアンによる学校訪問】



【託児付きスポーツイベント】

市民参加型スポーツ推進事業

1,311万円(前年度:1,718万円) p.26

▶市民参加型スポーツイベント支援事業

身近な場でスポーツに親しめる環境づくりを推進するため、「ビーチスポーツフェスタ」等、広く市民がスポーツ競技に参加できる大会やイベントの開催を支援します。



【ビーチスポーツフェスタ】

▶地域コミュニティ活性化検討事業 《新規》

スポーツを通じた地域活性化に向けた手法を検討します。

横浜マラソン開催事業

1億120万円(前年度:1億120万円) p.26

子どもから大人まで誰もが参加でき、「する」「みる」「さえる」全ての人が楽しめる大会を開催することで、市民の健康を増進するとともに、まちのにぎわいを創出します。



【横浜マラソン 2023】

【横浜マラソン 2024】

開催日程：6年10月27日(日)

開催場所：横浜ランドマークタワー前(スタート)

～横浜南部市場前(折り返し)

～首都高速湾岸線～臨港パーク(フィニッシュ)

(2) スポーツを通じた共生社会の実現

インクルーシブスポーツ推進事業

1,349万円(前年度:1,111万円) p.26

▶地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業 «新規»

誰もが共にスポーツに親しむ機会を創出するため、18区におけるインクルーシブスポーツの体験会・交流会や「YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバル」を開催します。体験だけでなく日常的に取り組んだ成果を発表できる場として、「YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバル」において、新たにインクルーシブスポーツの大会を実施します。

▶パラスポーツ競技力向上事業 «拡充»

各競技団体が主体となり、パラスポーツ競技を普及していくため、横浜市スポーツ協会、横浜市リハビリテーション事業団による伴走型支援を行います。



【YOKOHAMA スポーツ・
レクリエーションフェスティバル】



【パラスポーツ競技力向上事業
(パラボウリング大会)】

(3) 大規模スポーツイベントの誘致・開催等による地域経済活性化

大規模スポーツイベント等開催支援事業

1億44万円(前年度:1億148万円) p.27

「2024 ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」や、首都圏アリーナで初開催となる「日本カーリング選手権 横浜2025」をはじめとする、大規模スポーツイベントの誘致・開催支援等を行うことで、トップアスリートの競技を観戦できる機会を創出します。

また、新たにアプリなどのオンラインサービスを活用することで、スポーツ観戦者の市内回遊を促進し、市内経済の活性化につなげます。



© Shugo TAKEMI/Japan Triathlon Media

【2023 ワールドトライアスロン・
パラトライアスロンシリーズ横浜大会】



【日米対抗ソフトボール 2023】

トップスポーツチーム連携事業 《拡充》

640万円(前年度:447万円) p.27

横浜を本拠地とする13のトップスポーツチームとの連携・協働体制である「横浜スポーツパートナーズ」を通じて、スポーツ教室や選手と交流できるイベントなどを実施し、スポーツ振興やにぎわいづくりにつなげます。

また、チームと連携し、独自のふるさと納税返礼品を提供します。



【トップスポーツチームによる
スポーツ教室】

スポーツボランティア育成事業

514万円(前年度:581万円) p.27

横浜市スポーツ協会が運営する「横浜市スポーツボランティアセンター」を通じてボランティアの発掘・育成・活動機会の創出に向けた取組を推進します。

また、横浜市スポーツ協会や競技団体が開催する講習会等を通じて地域のスポーツ人材育成を推進します。



© Shugo TAKEMI/2022 Yokohama Triathlon
[2022 ワールドトライアスロン・
パラトライアスロンシリーズ横浜大会】

(4) スポーツ施設を中心とした地域活性化

横浜BUNTAI及び横浜武道館管理運営事業

19億5,372万円(前年度:21億474万円) p.27

2年7月に先行して供用開始した横浜武道館に続き、横浜BUNTAIを6年4月に供用開始しました。

2つの施設の特徴を生かした運営を行うことで、市民のスポーツ参加の場としていくとともに、横浜の新たなにぎわい創出拠点として、地域活性化につなげていきます。



【横浜BUNTAI 外観】

屋外プール再整備事業

2億8,218万円(前年度:4億782万円) p.27

本牧市民プールを引き続き運営するとともに、横浜プールセンターについては、本牧市民プールの利用状況の分析等を行うなど、再整備に係る検討を行います。



【本牧市民プール】

横浜国際プール利活用検討事業

1,000万円(前年度:1,000万円) p.27

横浜国際プールは供用開始から25年が経過し、設備等の更新が必要な時期となっています。再整備の事業化に向け、まちづくりの観点も踏まえながら、基本計画をとりまとめます。

4 文化芸術創造都市施策の推進

(1) 文化芸術を通じた次世代育成の取組

【芸術文化教育プログラム推進事業

3,494万円（前年度：3,494万円） p.23

次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等を体験できる教育プログラムを実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、学校の先生とアーティストのコーディネートを担当することで、各学校の目的に沿った効果的なプログラムの実施を支援します。



【川上北小学校：伝統芸能のプログラムの様子】

【子どもの文化体験推進事業 《新規》

1,000万円（前年度：－万円） p.23

より多くの子どもたちが身近な場所における文化体験を通じて、表現力やコミュニケーション力を育めるよう、地域の子どもたちが集まる放課後キッズクラブで音楽や美術などのプログラムを実施します。

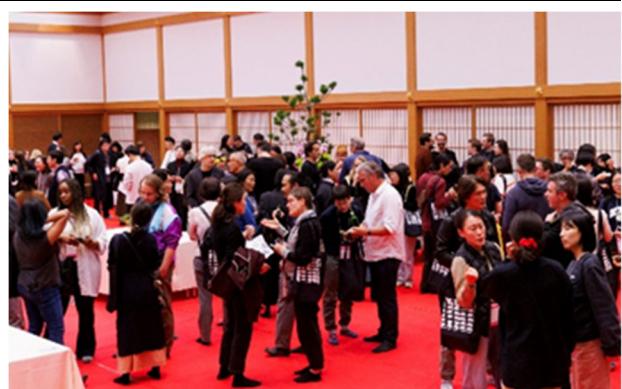
(2) 文化芸術によるまちのにぎわいの創出と国内外への発信

【創造都市推進事業

7,610万円（前年度：6,204万円） p.23

国際的なアートフェアをはじめとした民間の文化イベントとの連携を通じて、来街者の回遊性向上を図り、まちのにぎわいづくりにつなげます。

また、国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」や、日本最大規模のジャズフェスティバルである「横浜JAZZ PROMENADE」を開催し、横浜発の文化芸術を発信することで、にぎわいを創出し、都市のプレゼンス向上につなげます。



【YPAM2023・ウェルカムレセプション】

撮影：前澤秀登

(3) 歴史と創造性を生かしたまちづくり

創造界隈形成事業

2億8,632万円（前年度：2億8,620万円） p.22

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を創造界隈拠点として活用し、創造的な人材や地域との連携を通して、まちづくりを進めます。旧第一銀行横浜支店については、施設の価値や魅力を生かし、創造的な手法やコンテンツで活用する提案を公募し、運営事業者を選定します。

また、都心臨海部で培った創造性を生かしたまちづくりのノウハウを生かし、郊外部においても地域コミュニティの活性化につながる取組を進めます。

【創造界隈拠点】

BankART1929（文化芸術創造発信拠点）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、初黃・日ノ出町地区（地域再生まちづくり）、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）、旧第一銀行横浜支店



【象の鼻テラス】



【旧第一銀行横浜支店】

(4) 市民の文化芸術活動への支援と環境整備

地域文化サポート事業

2,800万円（前年度：3,100万円） p.23

横浜市内で実施される地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動を広く公募し、支援することで、文化芸術の持つ創造性を生かして、地域コミュニティの活性化に寄与します。

また、季刊誌「ヨコハマアートサイト」の発行やウェブサイト・実施レポート等による広報、まちづくり等さまざまな分野と文化芸術の関わりについての意見交換を行う研修等を通して、参加団体をサポートします。



【ROJIURARt 実行委員会:ワークショップの様子】



【金沢区舞台芸術サークル「潮の音」:金沢区民参加ステージ 2023】

文化施設運営事業

34 億 5,373 万円(前年度:34 億 9,252 万円) p.24

横浜美術館、横浜みなとみらいホール、関内ホール、横浜にぎわい座等、計 15 の文化施設において、市民の皆様の文化芸術に触れる機会の充実を図るとともに、次世代を担う子どもたちが多様な文化芸術に親しめるよう施設運営を行います。併せて、質の高い公演等を実施し、横浜の魅力を内外へ発信します。

また、市民の皆様が施設を安全・安心に利用できるよう老朽化等対応の修繕を実施するほか、引き続き鶴見区民文化センターの天井耐震化に向けた工事を行います。



【横浜みなとみらいホール外観】©平館 平

文化施設整備事業

47 億 9,570 万円 (前年度: 5 億 7,900 万円) p.24

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行なうことができるよう、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備します。

都筑区では、しゅん工に向けた工事の調整及び 7 年 3 月の開館に向けた準備を事業者と行います。

また、金沢区では、実施設計に着手します。



【都筑区民文化センター 完成イメージ】

【事業費内訳】都筑区：建物取得費等 47 億 2,100 万円

金沢区：実施設計費 7,470 万円

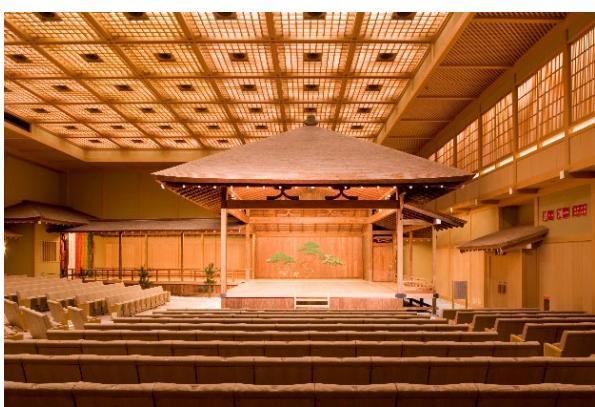
横浜能楽堂大規模改修事業

4 億 3,819 万円 (前年度: 8,814 万円) p.24

利用者の安全を確保するため、客席の天井の耐震化に向けた工事に加え、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図ります。6 年度は引き続き改修工事を行います。

なお、工事による休館期間中は事務所を移転し、アウトリーチ事業等を実施します。

工事概要 工事期間：6 年 2 月～7 年度中
総工事費：約 29 億円



【横浜能楽堂本舞台 「旧染井能舞台」】

◆MICE 次世代育成事業 【再掲】 p.8、29

(MICE 誘致・開催支援事業の一部)

国際会議等の開催に合わせ、子どもたちを対象に最先端の技術や情報に触れられる講演やワークショップ等を開催することで、専門性の高い内容を楽しく学ぶ機会を提供します。

◆子育て世代のスポーツ活動支援事業 【再掲】 p.9、26

(子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業の一部)

普段は子育てで忙しく、なかなかスポーツに取り組めない方に向け、親子で楽しめるスポーツ体験会の開催や、民間事業者と連携した、スポーツの定着に向けた取組を行っていきます。

また、トップスポートチーム等の既存のイベントに託児サービスをつけることで、参加しやすい環境を整えます。



【親子スポーツ体験】

◆スポーツ分野における学校訪問事業 【再掲】 p.9、26

(子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業の一部)

東京 2020 大会等を契機に更なるスポーツ振興を図るため、児童生徒向けのパラリンピアン等による学校訪問を拡充するほか、インクルーシブスポーツ体験、JOC オリンピック教室を実施します。

◆横浜トリエンナーレ事業 p.22

高校生の鑑賞券の無料化、親子でおしゃべりしながら鑑賞できる日の設定、妊婦や子ども連れの方に優先して入場いただける「こどもファスト・トラック」実施日の設定など、子育て世代がゆとりを実感しながら現代アートを楽しめる取組を実施します。

◆芸術文化教育プログラム推進事業 【再掲】 p.12、23

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等を体験できる教育プログラムを実施します。

◆クラシック・ヨコハマ推進事業 p.23

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供することを目的とし、国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」における横浜市民賞（聴衆賞）の受賞者を、市内の個人サロンや市役所アトリウムなどに招き、コンサートを実施します。

また、横浜ゆかりの若手演奏家にも福祉施設や病院、三溪園や民間のミュージアムなど市内各所で、演奏する機会を提供します。



【「第 77 回全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」(毎日新聞社提供)】

◆子どもの文化体験推進事業 【再掲】 p.12、23

より多くの子どもたちが身近な場所における文化体験を通じて、表現力やコミュニケーション力を育めるよう、地域の子どもたちが集まる放課後キッズクラブで音楽や美術などのプログラムを実施します。

◆ユニバーサルツーリズムの推進 p.28

(受入環境整備事業の一部)

障害の有無や年齢等に関わらず全ての方々が横浜観光を楽しめるよう、観光施設・宿泊施設のバリアフリー対応状況や、子育て世代に求められる授乳室の設置状況等の情報を発信するほか、車椅子やベビーカーでも移動しやすいモデルルート等を掲載したマップの更新を行い、情報発信を強化します。

また、市内観光関連事業者向けセミナーを継続し、「心のバリアフリー」の浸透を図ることで、ユニバーサルツーリズムを推進します。

◆地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業【再掲】p 10、26

(インクルーシブスポーツ推進事業の一部)

誰もが共にスポーツに親しむ機会を創出するため、18 区においてボッチャ等のインクルーシブスポーツの体験会・交流会や「YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバル」を開催します。体験だけでなく日常的に取り組んだ成果を発表できる場として、「YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバル」において、新たにインクルーシブスポーツの大会を実施します。



【ボッチャ体験（スポーツ・レクリエーションフェスティバル）】

◆パラスポーツ競技力向上事業 【再掲】p 10、26

(インクルーシブスポーツ推進事業の一部)

各競技団体が継続的にパラスポーツ競技に取り組んでいけるよう、横浜市スポーツ協会、横浜市リハビリテーション事業団による伴走型支援を行い、インクルーシブ水泳教室やパラ陸上タイムトライアル、パラボウリング大会などの事業を実施します。



【パラ陸上タイムトライアル】

◆横浜トリエンナーレ事業 p.22

障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」や市内放課後キッズクラブ等でコミュニケーションロボット「NAO」を活用したアート鑑賞ワークショップを実施します。

また、障害を理由に展覧会に訪れる方に障壁を感じられている方や、生きづらさを抱える若年層を対象とした鑑賞プログラムを実施します。

◆文化施設における取組 p.24

(文化施設運営事業の一部)

横浜みなとみらいホールでは、発達障害や自閉症などでホールでの音楽鑑賞に不安がある方も、周囲を気にせず安心して一緒に音楽を楽しめるコンサート「リラックス・パフォーマンス」を開催します。横浜市民ギャラリーあざみ野では、高齢者や認知症の方が、病気や環境の変化に左右されることなく、日常のなかで美術館やギャラリーに出かけて新しい経験をする楽しみを享受し続けられることを目指す「やさしい美術鑑賞プログラム」を実施します。

トピックスⅢ

デジタル技術を活用した取組

◆eスポーツを活用したにぎわい創出事業 【再掲】 p.4、28

(戦略的にぎわい創出事業の一部)

世界中が注目する急成長分野である e スポーツを活用し、大規模大会開催等の支援を行うことで、更なるにぎわいを創出します。



【横浜 e スポーツ大会】

◆観光分野における取組 p.28、29

(DMO推進事業及び観光振興事業の一部、受入環境整備事業の一部)

ビッグデータを活用した人流や属性、行動パターン等の分析により、ターゲティングやニーズ・トレンド等を把握するデジタルマーケティングを行います。

また、都心臨海部の商業施設等に設置したセンサーを拡充し、インバウンドを含めた独自の人流データ分析を進めます。

さらに、新横浜駅において AI チャット Bot を活用し、来訪者にとって利便性の高い観光情報を提供します。

◆MICE分野における取組 p.29

(MICE誘致・開催支援事業の一部)

主催者・参加者双方の来訪意欲を喚起するため、現地でしか体験できない横浜ならではのプログラムを紹介する動画コンテンツの拡充やWEB広告、SNSでの情報発信等、デジタルプロモーションを強化します。

◆スポーツ分野における取組 【再掲】 p.10、27

(大規模スポーツイベント等開催支援事業の一部)

アプリなどのオンラインサービスを活用し、トップスポーツチームの試合観戦者に横浜の観光情報を届けることで、多くの来訪者の市内回遊を促進し、市内経済の活性化につなげます。

また、試合前後の観戦者動向データを把握し、効果的な回遊促進策に向けた分析を行います。

◆横浜トリエンナーレ事業 p.22

位置情報のビッグデータを活用し、まちなか作品の鑑賞者数や来場者の行動分析を行います。

また、サポーターのシフト管理システムを導入するなど、運営面における DX の活用を強化します。

◆文化施設における取組 p.24

(文化施設運営事業の一部)

横浜美術館では来館しなくても収蔵作品の魅力に触れられるよう、作品の画像をデジタルデータ化し、ウェブサイトで公開するとともに、デジタルデータに作品解説を掲載します。

また、関内ホールでは主催するストリートライブ公演を動画配信します。

◆横浜マラソンにおける取組 p.26

(横浜マラソン開催事業の一部)

グリーン電力の導入、再生ポリエステルを使用した参加賞Tシャツの制作や、大会運営車両への電気自動車の活用など、環境負荷の軽減に向けた取組を引き続き実施します。



【参加賞Tシャツを着用したランナー】 【排出ガスゼロの大会運営車両】

◆ワールドトライアスロンにおける取組 p.27

(大規模スポーツイベント開催支援事業の一部)

ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会では、競技会場に山下公園前海域を使用していることから、より多くの方に地球環境、特に海の環境への意識を高めていただく機会となるよう、本大会と連携したイベント「Green Triathlon」を開催しました。参加者等から集めた環境協力金によりブルーカーボンクレジットを活用したカーボン・オフセットや、大会参加者にも本事業を幅広くご理解いただくための「完走（乾燥）わかめ」の配布、電気自動車から会場で使用する電力の一部を供給するなど、積極的に実施しました。

◆スポーツセンター及び横浜国際プールにおけるESCO事業 p.27

(スポーツ施設管理運営事業の一部)

スポーツセンター等において、照明をLED化し、省エネルギー化を図ります（契約・設計・工事：6年度、サービス期間：7～16年度）。

また、横浜国際プールにおいて、高効率空調機器の導入や照明のLED化、太陽光発電設備の設置等により、省エネルギー化を図ります（サービス期間：5～19年度）。

◆横浜トリエンナーレ事業 p.22

Y-SDGs認証を取得したことを契機に、横浜トリエンナーレ組織委員会事務局として独自に策定した環境マネジメントシステム（環境に関する方針や目標）を実践します。

また、会場の1つである横浜美術館において、使用した電力のカーボン・オフセットを行います。

◆創造的イルミネーション事業 p.22

カーボン・オフセットに取り組むとともに、再生可能エネルギーを活用するなど、脱炭素に配慮しながらイベントを実施します。

◆文化施設の大規模改修 p.24

(横浜能楽堂大規模改修事業の一部)

横浜能楽堂の大規模改修では、太陽光パネルの設置、照明のLED化など、二酸化炭素排出量削減に寄与する改修項目を採用しています。

◆eスポーツを活用したにぎわい創出事業 【再掲】 p.4、28

(戦略的にぎわい創出事業の一部)

市民の方々がeスポーツに触れることのできる様々な機会を創出し、eスポーツを通じた交流促進による、地域コミュニティの活性化に取り組みます。

◆スポーツによる地域活性化に向けた取組 【再掲】 p.9、26

(市民参加型スポーツ推進事業の一部)

スポーツを通じた地域活性化に向けて、区・地域の特性に応じた地域スポーツのあるべき姿と地域人材の活用方策を、地域でのスポーツの担い手の方々とともに検討します。

◆地域スポーツ団体の活動に対する取組 p.26

(スポーツ関係団体支援事業の一部)

生涯スポーツの普及・振興を図るため、市民の健康増進、体力向上等、地域のスポーツ振興のために活躍している横浜市スポーツ協会、スポーツ推進委員連絡協議会、横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会等の活動を支援します。



【総合型地域スポーツクラブの活動】

◆地域コミュニティ活性化に向けた創造性を生かした取組 【再掲】 p.13、22

(創造界隈形成事業及びアーツコミッショナリ事業の一部)

都心臨海部で培った創造性を生かしたまちづくりのノウハウを、地域コミュニティの活性化に生かします。

アーティストが地域の拠点等に滞在し、リサーチや創作活動等を通じて地域への理解を深め、身近な地域の魅力の発信や交流を目的とした「ACY アーティスト・フェローシップ助成」等を実施します。



【撮影：アーツコミッショナリ・ヨコハマ】

◆ヨコハマアートサイトにおける取組 【再掲】 p.13、23

(地域文化サポート事業の一部)

文化芸術の持つ創造性を生かして、地域コミュニティの活性化に寄与するため、横浜市内で実施される地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動を広く公募し、支援します。



【コンパス:まるごとギャラリー2023】

◆文化施設における取組 p.24

(文化施設運営事業の一部)

横浜能楽堂及び横浜市民ギャラリーでは、「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」として、紅葉ヶ丘エリアの魅力を発信する事業を実施しており、近隣の公立文化施設3館（県立音楽堂、県立青少年センター、県立図書館）との連携により、地域でのイベントや情報発信に取り組みます。

III 令和6年度にぎわいスポーツ文化局予算総括表

(単位：千円)

科 目	6年度 予算額	5年度 予算額	差 引 増△減	前年 比 (%)	主 な 増 減 事 業
4款 にぎわい スポーツ文化費	21,878,260	23,015,921	△ 1,137,661	△ 4.9	
1項 にぎわい スポーツ文化費	21,878,260	23,015,921	△ 1,137,661	△ 4.9	
1目 にぎわい 総務費	1,445,676	1,142,676	303,000	26.5	<ul style="list-style-type: none"> ・職員人件費 314,164千円増 ・調査分析事業 11,164千円減
2目 文化芸術創造 都市推進費	10,041,712	12,329,572	△ 2,287,860	△ 18.6	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術館大規模改修事業 6,571,483千円減 ・横浜トリエンナーレ事業 355,930千円減 ・文化施設整備事業 4,216,703千円増 ・横浜能楽堂大規模改修事業 350,045千円増
3目 スポーツ 振興費	5,706,734	4,944,676	762,058	15.4	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設管理運営事業 1,090,314千円増 ・横浜BUNTAI及び横浜武道館管理運営事業 151,021千円減 ・屋外プール再整備事業 125,644千円減 ・市民利用施設予約システム事業 97,411千円減
4目 観光MICE 振興費	4,684,138	4,598,997	85,141	1.9	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的にぎわい創出事業 75,119千円増 ・戦略的誘客プロモーション事業 9,116千円増

IV 予算科目別内訳

1	4款1項1目 にぎわい 総務費	本年度 千円 1,445,676	前年度 千円 1,142,676	差引 千円 303,000	本年度の財源			
					国・県	市債	その他	一般財源
					千円 —	千円 —	千円 30	千円 1,445,646

総務部

- (1) **調査分析事業** **4,100千円** (前年度 15,264千円)
 市内の観光・スポーツ・文化に係る施設及びイベントの認知率等や、文化芸術創造都市施策の浸透度など、国内における横浜への意識や生活行動の実態を調査し、にぎわいスポーツ文化局の施策を立案・実施するための現状把握や効果検証の基礎資料とします。
- (2) **開港記念式典開催事業** **5,680千円** (前年度 5,680千円)
 開港記念日（6月2日）に市民と市政関係者が共に、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表し、開港を祝う式典を開催します。
- (3) **総務費** **14,385千円** (前年度 14,385千円)
 にぎわいスポーツ文化局職員の人材育成事業などを実施します。
- (4) **職員人件費** **1,421,511千円** (前年度 1,107,347千円)
 にぎわいスポーツ文化局職員の人件費を執行します。

2	4款1項2目 文化芸術創造都市推進費	本年度 千円 10,041,712	前年度 千円 12,329,572	差引 千円 △2,287,860	本年度の財源			
					国・県 千円 70,543	市債 千円 5,452,000	その他 千円 98,466	一般財源 千円 4,420,703

にぎわい創出戦略部

文化芸術創造都市推進部

(1) 創造界隈形成事業

286,316千円 (前年度 286,201千円)

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を活用した創造界隈拠点として、旧第一銀行横浜支店、BankART1929（文化芸術創造発信拠点）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、初黄・日ノ出町地区（地域再生まちづくり）、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）の運営・管理を行い、創造的な人材や地域との連携を通して、まちづくりを進めます。また、旧第一銀行横浜支店は、新たな運営事業者を選定します。また、都心臨海部で培った創造性を生かしたまちづくりを郊外部でも展開していきます。

(2) アーツコミュニケーション事業

37,691千円 (前年度 34,360千円)

文化芸術と企業・市民等の様々な主体をつなぐプラットフォームを形成し、子育て世代をはじめとした市民が文化芸術に触れる機会をつくるとともに、都心臨海部の回遊性促進等を進め、文化芸術の持つ創造性を生かしたにぎわいづくりと国内外における都市としてのプレゼンスを高めます。

(3) 横浜トリエンナーレ事業

59,070千円 (前年度 415,000千円)

6年3月15日から6月9日まで開催する第8回展の閉幕後、第8回展の振り返りと今後へ向けた検討を進めます。

(4) 創造的イルミネーション事業

360,000千円 (前年度 400,000千円)

都心臨海部における先端技術を用いた光と音楽の演出により、横浜ならではの港の夜景をまちぐるみで創出するとともに、地域のイルミネーション等と連携して冬の夜の回遊性向上や滞在時間の延長を図り、にぎわいづくりにつなげます。

また、水際線を安全に楽しく歩けるよう、これまでのイルミネーションのノウハウを生かし、光環境づくりの検討を進めます。

(5) 映像文化都市づくり推進事業

17,832千円 (前年度 17,529千円)

市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を引き続き実施することで、映像文化における次世代育成等を推進します。

(6) 創造都市推進事業	76,099千円	(前年度 62,038千円)
国際的アートフェア等との連携を通じて、来街者の回遊性の向上や、まちのにぎわい創出につなげます。		
また、国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場として「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を開催し、都心臨海部の活性化を図るとともに、横浜発の舞台芸術を発信することで、都市のプレゼンスを高めます。		
日本最大規模のジャズフェスティバルである「横濱JAZZ PROMENADE」の開催を引き続き支援します。		
(7) 芸術文化教育プログラム推進事業	34,940千円	(前年度 34,940千円)
次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、小・中・特別支援校等にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等を体験できる教育プログラムを実施します。		
NPO法人や市内文化施設等が、学校の先生とアーティストのコーディネーターを担当することで、各学校の目的に沿った効果的なプログラムの実施を支援します。		
また、本事業を担うプラットフォーム事務局により、コーディネーターの研修を行います。		
(8) 子どもの文化体験推進事業	10,000千円	(前年度一)
より多くの子どもたちが身近な場所における文化体験を通じて、表現力やコミュニケーション力を育めるよう、夏休みの時期に、地域の子どもたちが集まる放課後キッズクラブで音楽や美術などのプログラムを実施します。		
(9) 地域文化サポート事業	28,000千円	(前年度 31,000千円)
横浜市内各地で実施される、市民・文化団体が実施する、地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動を広く公募し、支援することで、文化芸術の持つ創造性を生かして、地域コミュニティの活性化に寄与します。		
また、季刊誌「ヨコハマアートサイト」の発行やウェブサイト・実施レポート等による広報、まちづくり等さまざまな分野と文化芸術の関わりについての意見交換を行う研修等を通して、参加団体をサポートします。		
(10) クラシック・ヨコハマ推進事業	9,000千円	(前年度 9,000千円)
国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」の開催に合わせ、コンクール出場経験者をはじめ、国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供すること及び市民の皆様に身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、市内の様々な会場でクラシック音楽のコンサートを実施します。		
また、コンクールでは、市民の皆様が選ぶ聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。		
(11) 芸術文化支援事業	53,100千円	(前年度 33,900千円)
音楽、美術、舞台芸術などの分野において、市内の文化芸術活動の基盤となる文化事業を支援します。また、フランス映画祭の開催を支援します。		

(12) 文化施設運営事業 **3,453,726千円** (前年度 3,492,516千円)

横浜美術館、横浜みなどみらいホール、関内ホール、横浜にぎわい座等の文化施設の運営及び修繕等を行います。

また、鶴見区民文化センターの天井耐震化工事を引き続き行います。

○ 横浜美術館運営費	705,313千円
○ 横浜みなどみらいホール運営費	519,901千円
○ 横浜能楽堂運営費	166,845千円
○ 横浜にぎわい座運営費	225,800千円
○ 関内ホール等文化施設運営費	1,058,866千円
○ 区民文化センタ一天井脱落対策費	365,968千円
○ 文化施設修繕費等	411,033千円

(13) 横浜美術館大規模改修事業 **175,200千円** (前年度 6,746,683千円)

空調設備をはじめ、電気や衛生設備等の設備機器の長寿命化や、展示環境の改善、バリアフリー対応、収蔵庫の拡張等を行いました。

5年度に改修工事は終了し、6年度は美術作品の外部倉庫から美術館への移転を行います。

(14) 横浜能楽堂大規模改修事業 **438,185千円** (前年度 88,140千円)

利用者の安全を確保するため、客席の天井の耐震化に向けた工事に加え、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図ります。

6年度は引き続き改修工事を行います。

なお、工事による休館期間中は事務所をランドマークプラザに移転し、能・狂言の紹介を行うとともに、アウトリーチ事業等を実施します。

(15) 文化施設整備事業 **4,795,700千円** (前年度 578,997千円)

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行なうことができるよう、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備します。

都筑区では、建物を取得し、開館に向けた準備を進めます。

また、金沢区では、実施設計を行います。

○ 区民文化センター整備

・都筑区（センター北駅）：建物取得費等 (都筑区における区民文化センター等整備予定地活用事業の中での整備)	4,721,000千円
・金沢区（金沢八景駅）：実施設計	74,700千円

(16) フェスティバルによるにぎわい創出事業 **180,816千円** (前年度 61,455千円)

集積する音楽施設や大規模イベントと連携した発信力のあるコンテンツ、公共空間・オープンスペースを活用した街なか展開、次世代育成や市民参加の取組など、幅広い世代が楽しめる音楽を中心としたライブエンターテインメントの新たなフェスティバルを開催し、より一層のまちのにぎわい創出や回遊促進につなげます。

- (17) 日中韓都市間文化交流事業** 7,360千円 (前年度 8,000千円)
「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づき、中国泉州市及び韓国光州広域市と、アーティストや芸術団体の派遣・招へい等を通じた都市間文化交流を行います。
- (18) その他の文化振興事業** 18,677千円 (前年度 22,963千円)
横浜文化賞の贈呈、指定管理者の選定・評価等を実施します。
また、課内業務を効率的に遂行するための事務費を執行します。

【終了事業】

- (文化プログラム推進事業) (前年度 1,850千円)
(ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン推進事業) (前年度 5,000千円)

3	4款1項3目 スポーツ振興費	本年度 千円 5,706,734	前年度 千円 4,944,676	差引 千円 762,058	本年度の財源			
					国・県 千円 23,135	市債 千円 1,772,000	その他 千円 81,565	一般財源 千円 3,830,034

スポーツ振興部

- (1) **スポーツ関係団体支援事業** **426,867千円** (前年度 438,232千円)
 スポーツ推進委員連絡協議会や横浜市スポーツ協会をはじめとするスポーツ団体等との連携・協働により、誰でも身近な場所で気軽にスポーツを楽しむ環境をつくります。
- (2) **子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業** **15,837千円** (前年度 15,499千円)
 子どものスポーツ活動を促進するため、児童生徒を対象としたラグビーインクルーシブスポーツ等の体験会を実施するほか、子育て世代が気軽に安心してスポーツに取り組めるよう、親子で共に楽しめるイベントを開催します。
- (3) **スポーツ推進審議会費** **1,938千円** (前年度 2,080千円)
 スポーツの推進について審議するため、外部有識者で構成するスポーツ推進審議会を開催します。
- (4) **学校施設への夜間照明設置事業** **60,207千円** (前年度 3,556千円)
 スポーツをする場を拡充し、地域で気軽にスポーツに親しむ機会を創出するため、市内中学校校庭へ夜間照明を設置します。
 また、夜間照明設置による効果を検証するため、調査を実施します。
- (5) **市民参加型スポーツ推進事業** **13,109千円** (前年度 17,176千円)
 市民が身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりを推進するため、市民参加型スポーツイベントの開催支援を行います。
 また、スポーツを通じた地域活性化に向けた手法を検討します。
- (6) **横浜マラソン開催事業** **101,200千円** (前年度 101,200千円)
 子どもから大人まで誰もが参加でき、「する」「みる」「ささえる」全ての人が楽しめる大会を開催し、市民の健康を増進するとともに、まちのにぎわいを創出します。
- (7) **インクルーシブスポーツ推進事業** **13,487千円** (前年度 11,106千円)
 共生社会の実現を目指し、関係団体と連携しながら、誰もが共に親しめるインクルーシブスポーツを推進するとともに、パラスポーツ競技の普及を支援していきます。
- (8) **スポーツ国際交流事業** **2,800千円** (前年度 1,000千円)
 韓国仁川広域市とのスポーツを通じた交流事業を行います。

(9) 大規模スポーツイベント等開催支援事業	100,440千円	(前年度 101,484千円)
「2024ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」をはじめとする、大規模スポーツイベントの誘致・開催支援等を行うことで、トップアスリートの競技を観戦できる機会を創出するとともに、スポーツ観戦者の市内回遊を促進し、市内経済の活性化につなげます。		
(10) トップスポーツチーム連携事業	6,403千円	(前年度 4,473千円)
横浜を本拠地とする13のトップスポーツチームとの連携・協働体制である「横浜スポーツパートナーズ」を通じて、スポーツ振興やにぎわいづくりにつなげます。また、チームと連携し、独自のふるさと納税返礼品を提供します。		
(11) スポーツボランティア育成事業	5,144千円	(前年度 5,806千円)
横浜市スポーツ協会が運営する「横浜市スポーツボランティアセンター」を通じたボランティアの発掘・育成・活動機会の創出に向けた取組を推進します。また、競技団体が開催する講習会による地域のスポーツ人材育成を推進します。		
(12) 屋外プール再整備事業	282,175千円	(前年度 407,819千円)
PFI事業契約に基づき、本牧市民プールを引き続き運営していくとともに、横浜プールセンターについては、本牧市民プールの利用状況の分析等を行うなど、再整備に係る検討を行います。		
(13) 横浜BUNTAI及び横浜武道館管理運営事業	1,953,715千円	(前年度 2,104,736千円)
PFI事業契約に基づき、横浜BUNTAI及び横浜武道館の維持管理・運営を行います。		
(14) 横浜国際プール利活用検討事業	10,000千円	(前年度 10,000千円)
横浜国際プール再整備の事業化に向け、まちづくりの観点も踏まえながら、基本計画をとりまとめます。		
(15) スポーツ施設管理運営事業	2,651,930千円	(前年度 1,561,616千円)
各スポーツ施設の管理運営や必要な施設修繕を実施します。		
ア 特定天井脱落対策	1,078,692千円	
特定天井脱落対策として、スポーツセンターの天井改修を行います。 【工事】金沢、都筑、瀬谷スポーツセンター		
イ 体育室空調機設置	647,284千円	
体育室に空調機を設置していないスポーツセンターに空調機を設置します。 【実施設計】南、泉スポーツセンター 【工事】金沢、瀬谷スポーツセンター		
ウ 体育館、プール等の運営等	925,954千円	
体育館やプール等のスポーツ振興課所管施設の管理運営を行うとともに、各区所管スポーツセンターの修繕等を実施します。		
(16) 市民利用施設予約システム事業	61,482千円	(前年度 158,893千円)
市民利用施設予約システムの運用保守及びサービスセンターの運営を行います。		

4	4款1項4目 にぎわい観光 MICE振興費	本年度 千円 4,684,138	前年度 千円 4,598,997	差引 千円 85,141	本年度の財源			
					国・県 千円 10,000	市債 千円 一	その他 千円 1,332,521	一般財源 千円 3,341,617

にぎわい創出戦略部

観光MICE振興部

(1) 戰略的にぎわい創出事業

305,019千円 (前年度 229,900千円)

都心臨海部の水際線の魅力や公共空間等を積極的に活用したにぎわいづくりに取り組むとともに、地元企業・商店街・団体等が実施主体となる大規模イベントの開催支援や、大規模イベントを活用した民間事業者との連携による戻遊性向上・宿泊促進策を実施します。

また、横浜を拠点とするプロeスポーツチーム等と連携した大規模大会の開催支援等や、eスポーツに取り組む市民活動の支援を行います。

(2) 戰略的誘客プロモーション事業

257,758千円 (前年度 248,642千円)

国内向けには、市内事業者と連携して、記念日等の非日常を楽しむことのできる特別感のあるコンテンツ開発に取り組むとともに、OTAやメディア、商談会・展示会等を活用したプロモーションを実施し、リピーターの獲得につなげていきます。また、冬季閑散期対策も進めることで、戻遊性向上・宿泊促進による市内経済の活性化につなげます。

海外向けには、訪日観光の活発化や航空便の就航状況などを踏まえ、OTA等を活用した戦略的なデジタルプロモーションを行い、市内へのインバウンド誘客を図ります。

また、観光レップ等による情報発信や現地旅行会社へのセールス・プロモーション、商談会・展示会への参加等を実施します。加えて、クルーズ・フレンドリー・プログラムを実施し、クルーズ旅客等の市内戻遊性向上を促進します。

あわせて、横浜の観光公式ウェブサイト「横浜観光情報」やSNS等を活用して、国内外に向けて横浜の観光・MICEに関する情報を発信します。

(3) 受入環境整備事業

48,264千円 (前年度 52,204千円)

市内の観光案内所を運営します。新横浜駅については、AIチャットBot活用による効率的な運営を推進します。

また、市内宿泊施設等のバリアフリー情報の発信や市内事業者向けセミナーを実施してユニバーサルツーリズムを推進します。

(4) 三溪園施設整備等支援事業

182,680千円 (前年度 197,706千円)

重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、工期を3期に分け、緊急度の高い建造物から実施しています。

6年度は、旧矢箇原家住宅の工事に対し支援します。

また、観光施設としての新たな魅力創出に向けて、規制緩和などの検討を進めます。

(5) DMO推進事業	122,225千円	(前年度 121,423千円)
人流データの分析や、インバウンドニーズ調査等を実施するなど、登録DMOである（公財）横浜市観光協会のマーケティング機能を一層強化します。		
また、DMOが、観光・M I C E のけん引役として、観光地域づくりフォーラムやワーキング等の開催を通じ、地域や観光事業者など多様な関係者を巻き込みながら、マーケティングに基づく戦略的な施策を展開します。		
(6) 観光施設維持管理事業	65,846千円	(前年度 118,442千円)
本市の観光振興を図るため、所管施設（横浜人形の家、横浜マリンタワー等）の維持管理・運営を行います。		
(7) ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業	1,380千円	(前年度 1,500千円)
ブランドプロモーション等、販売促進につながる事業に対する支援を行うことで、横浜観光の魅力向上、市内経済の活性化を図ります。		
(8) 観光振興事業	41,464千円	(前年度 38,584千円)
国内外からの来訪者の実態を把握し、観光施策立案の基礎データとして活用するため、観光動態・消費動向調査を実施します。		
(9) M I C E 誘致・開催支援事業	240,211千円	(前年度 235,013千円)
M I C E 開催に伴う経済効果の拡大と、誘致をより一層推進するため、M I C E のマーケティング機能を強化します。		
アフターコンベンションの充実等、参加者増・観光消費額増につながる魅力づくりや、関連産業育成・ビジネス機会拡大に向けた取組を推進するとともに経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等の誘致を加速し、グローバルM I C E都市としての競争力を強化します。		
本市の施策推進やシティープロモーションを行うために、各区局と連携し政府系国際会議の誘致・開催支援活動等を行います。		
(10) 減債基金積立金	116,883千円	(前年度 57,592千円)
(株) 横浜国際平和会議場貸付金の元金と利子収入を減債基金に積み立てます。		
(11) 20街区M I C E 施設整備運営事業	3,302,408千円	(前年度 3,297,991千円)
「パシフィコ横浜ノース」について、P F I 事業により維持管理及び運営を行います。新たな顧客開拓・市場創出に取り組み、にぎわい創出・市内経済の発展へ貢献します。		

・株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を設定。

（6年度設定額：1,404,000千円（5年度設定額：1,872,000千円））

（設定期間：6年4月～9年3月）

1 団体の概要

<事業目的>

国際・国内会議及び学術会議等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

<設立>

昭和62年6月3日

<基本金>

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

2 団体の経営状況：4年度決算

・売上高 8,708,004千円 ・売上原価 7,322,346千円

・営業利益 511,523千円 ・当期純利益 322,761千円

3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを意思決定している。

4 対象債務の返済の見通しとその確実性

5年度は催事件数も回復し収支も堅調に推移している。引き続き、売上の確保及び経費削減に取り組み、9年3月までに対象債務を返済する見通しである。